
8 品目別調査結果 あんぽ柿

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識
6. 調査のまとめ

1. 概況

299

調査結果概要（1/3）

1. 各取引段階の“量”の変化

出荷段階

- 福島県産あんぽ柿は、震災後に2年間、加工・出荷を自粛。平成25年度には加工・出荷を再開。
- 出荷再開以降、徐々に出荷量は回復。令和5年度の出荷量は、平成22年度実績の68.4%となっている。

卸売段階

- 東京都中央卸売市場の福島県産干し柿のシェアは、震災後に大きく低下したが、その後徐々に回復し、令和6年1月～3月・12月は20%を超えるシェアで推移している。
- 取扱量が少ない市場もあるが、データを集計した6市場では名古屋市中央卸売市場を除き、シェア1位となる月がある。

300

2. 各取引段階の“価格”の変化

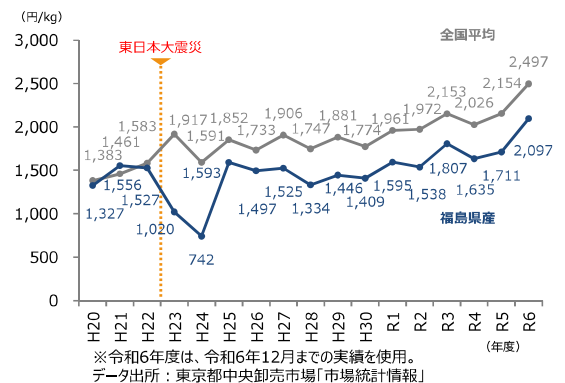
市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産干し柿の取引価格は、震災直後に大きく下落したが、平成25年度には震災前と同程度(=約1,600円)まで回復した。
- 震災前は、全国平均とほぼ同程度の価格であったが、近年は全国平均を下回る水準で推移している。

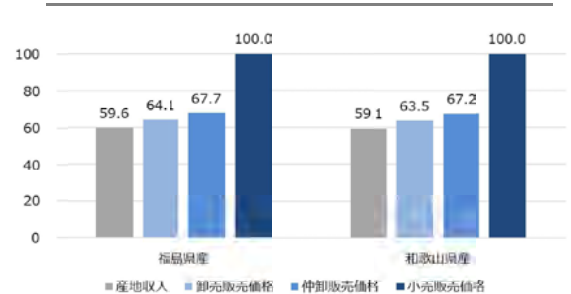
個別事例における状況

- 福島県産と他県産を併売している小売業者から価格を入手した。
- 福島県産と和歌山県産の価格形成を比較すると、小売業者が仕入れ値が異なる両産地産に同一の販売価格を設定していたことで差が見られたが、仲卸販売価格までの価格形成に違いは見られなかった。
- 小売業者によれば、①福島県産は「蜂屋」という差別化が図れる干し柿専用の品種であること、②福島県産は1パック200～230gに対して、和歌山県産は150gであることから福島県産の方が仕入れ値が多少高くなっていた。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



あんぽ柿の価格形成事例



※数値は小売販売価格を100とした指数。
※産地収入とは集出荷業者の販売価格のことを指す。

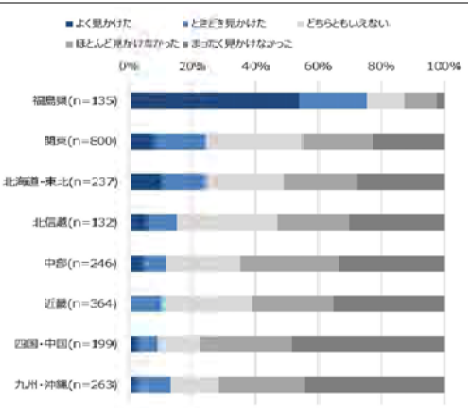
301

3. 福島県産品に対する認識

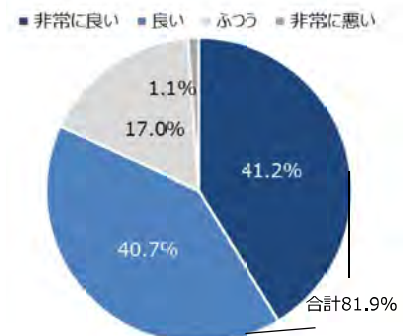
消費者への調査

- 福島県産あんぽ柿を店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が最も高く、福島県が最も高く、他の地域では20%に満たない。
 - 福島県産あんぽ柿を購入したことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では4.6%であった。
- 福島県産あんぽ柿の購入者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が81.9%であった。

福島県産あんぽ柿を店頭で見かけたか



福島県産あんぽ柿購入者の評価 (n=182)



302

2. 調査実施概要

303

調査の全体像

概要調査として卸売市場データ等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産あんぼ柿の購入実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	- 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 - 市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。	消費者の福島県産品の購入実態や評価を把握する。	- ヒアリングにより取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。 - 競合県産品についても調査の上、比較分析を行う。
調査対象	- 卸売市場データ - 福島県からの提供データ	全国の消費者（4,000人）	- 贈答用化粧箱またはトレーで包装されたあんぼ柿 - 福島県産以外に他県産も扱う事例を対象に含める。
調査内容	- 福島県産あんぼ柿の出荷量 - 卸売市場における取扱量と、競合県産品と比較したシェアの推移 - 卸売市場における取引価格の競合県産品との比較	- 福島県産あんぼ柿を店頭で見かけた経験 - 福島県産あんぼ柿の購入経験 - あんぼ柿購入時の重視点 - 福島県産あんぼ柿の評価	流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	各取引段階の“量”の変化 各取引段階の“価格”の変化	福島県産品に対する認識	各取引段階の“価格”の変化

304

各データを収集・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査
使用データ

- ・ 首都圏・関西圏・名古屋・札幌の各市場の統計データ
- ・ 福島県からの提供データ

アンケート
調査

- ・ 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
 - 4,000件を回収し、分析を実施した。

追跡調査

- ・ 首都圏の小売業者へ流通するルート：1 ルート
 - このルートでは競合県産の価格データも収集。
- ・ 福島県内の小売業者へ流通するルート：1 ルート
- ・ 関西の小売業者へ流通するルート：1 ルート

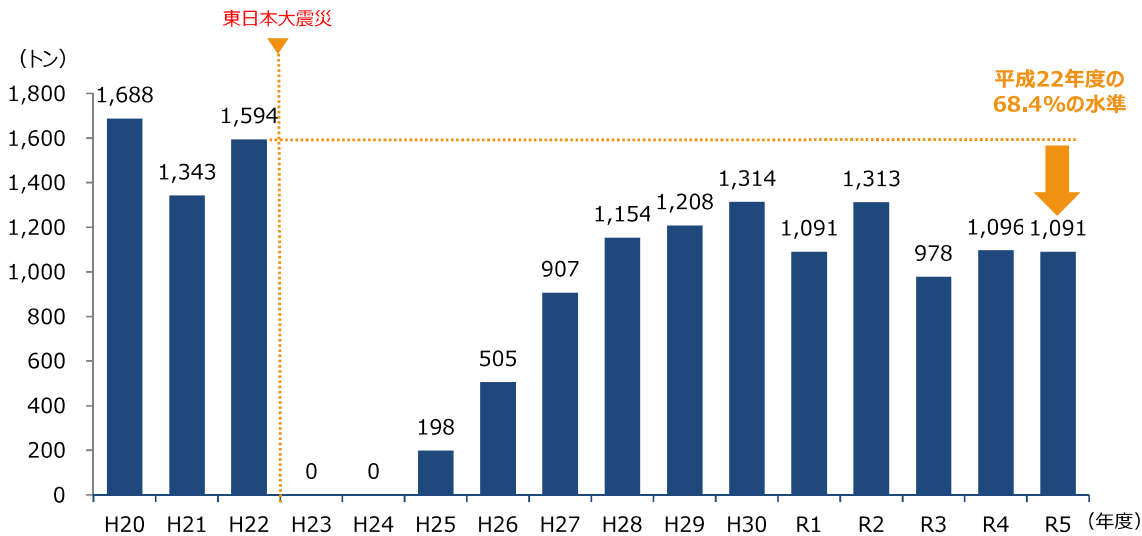
※追跡調査では個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から価格データを受領。 305

3. 各取引段階の“量”の変化

福島県産あんぽ柿の出荷量の推移

福島県産あんぽ柿は、震災直後に出荷を自粛した後、平成25年度に出荷を再開して以降、徐々に出荷量が回復。令和5年度の出荷量は、平成22年度実績の68.4%となっている。

福島県産あんぽ柿の出荷量の推移



データ出所：福島県調べ
※当年10月～翌年4月までを1年度として集計した値。

※令和3年度は、凍霜害の影響で出荷量が減少した。

各市場における干し柿・あんぽ柿の産地リレー(令和5年産・首都圏) ※市場によって商品分類が異なるため、干し柿で集計した市場とあんぽ柿で集計した市場がある。

東京都中央卸売市場では1月～3月に、横浜市中心卸売市場では3月に、福島県産干し柿がシェア1位であった。

各市場における産地リレー(令和5年産)

東京都中央卸売市場		干し柿のデータ												各月で市場シェア1位～3位の順に ■ ■ ■ で色付け	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
福島		48%	56%	47%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	20%	359	
長野		36%	31%	21%	31%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	45%	399	
山梨		6%	1%	2%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	57%	40%	13%	142	
富山		2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	17%	10%	73	
和歌山		3%	6%	20%	47%	34%	35%	57%	100%	58%	17%	7%	3%	65	
総量		304	154	55	16	1	0	0	0	0	26	113	474		

横浜市中心卸売市場		干し柿のデータ													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
福島		36%	48%	73%	19%	0%	-	-	-	-	0%	21%	29%	75	
長野		55%	52%	27%	80%	0%	-	-	-	-	0%	27%	56%	105	
山梨		0%	0%	0%	0%	0%	-	-	-	-	89%	44%	8%	14	
和歌山		7%	0%	0%	0%	0%	-	-	-	-	0%	0%	3%	7	
富山		0%	0%	0%	0%	0%	-	-	-	-	1%	5%	2%	2	
総量		62	40	14	1	0	0	0	0	0	3	11	75		

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の統計データ

各市場における干し柿・あんぽ柿の産地リレー(令和5年産・関西圏) ※市場によって商品分類が異なるため、干し柿で集計した市場とあんぽ柿で集計した市場がある。

大阪市中央卸売市場・京都市中央卸売市場では、12月・1月・2月において福島県産あんぽ柿がシェア1位であった。

各市場における産地リレー(令和5年産)

大阪市中央卸売市場		あんぽ柿のデータ												各月で市場シェア1位～3位の順に	
		■ ■ ■ で色付け													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
福島		73%	59%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	33%	65	
和歌山		18%	33%	67%	94%	83%	83%	74%	78%	51%	39%	22%	25%	56	
山梨		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	23%	25%	7%	19	
富山		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	24%	11%	17	
鳥取		1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	16%	9%	9%	12	
総量		38	26	9	3	0	0	0	0	0	14	44	60		

京都市中央卸売市場		あんぽ柿のデータ												各月で市場シェア1位～3位の順に	
		■ ■ ■ で色付け													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
福島		95%	99%	-	-	-	-	-	-	-	0%	0%	48%	14	
鳥取		0%	0%	-	-	-	-	-	-	-	42%	36%	48%	7	
山梨		0%	0%	-	-	-	-	-	-	-	54%	53%	3%	6	
富山		0%	0%	-	-	-	-	-	-	-	1%	7%	0%	1	
岡山		0%	0%	-	-	-	-	-	-	-	3%	4%	1%	1	
総量		7	4	0	0	0	0	0	0	0	3	9	5		

データ出所：各卸売市場の統計データ ※福島県及び年間取扱量上位県を表示。 ※総量・合計の単位はトン。 309

各市場における干し柿・あんぽ柿の産地リレー(令和5年産・その他) ※市場によって商品分類が異なるため、干し柿で集計した市場とあんぽ柿で集計した市場がある。

名古屋市中央卸売市場では、他市場に比べ福島県産あんぽ柿の取扱量は少なかった。 札幌市中央卸売市場では、12月から3月にかけて福島県産干し柿がシェア1位であった。

各市場における産地リレー(令和5年産)

名古屋市中央卸売市場		あんぽ柿のデータ												各月で市場シェア1位～3位の順に	
		■ ■ ■ で色付け													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
福島		6%	11%	14%	0%	0%	0%	0%-	-	-	0%	0%	0%	6	
長野		84%	76%	82%	97%	86%	100%	100%	-	-	20%	27%	92%	155	
山梨		2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%-	-	-	68%	30%	3%	13	
和歌山		6%	10%	1%	0%	0%	0%	0%-	-	-	6%	2%	2%	7	
岐阜		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%-	-	-	1%	22%	0%	5	
総量		41	19	8	2	0	0	0	0	0	3	23	99		

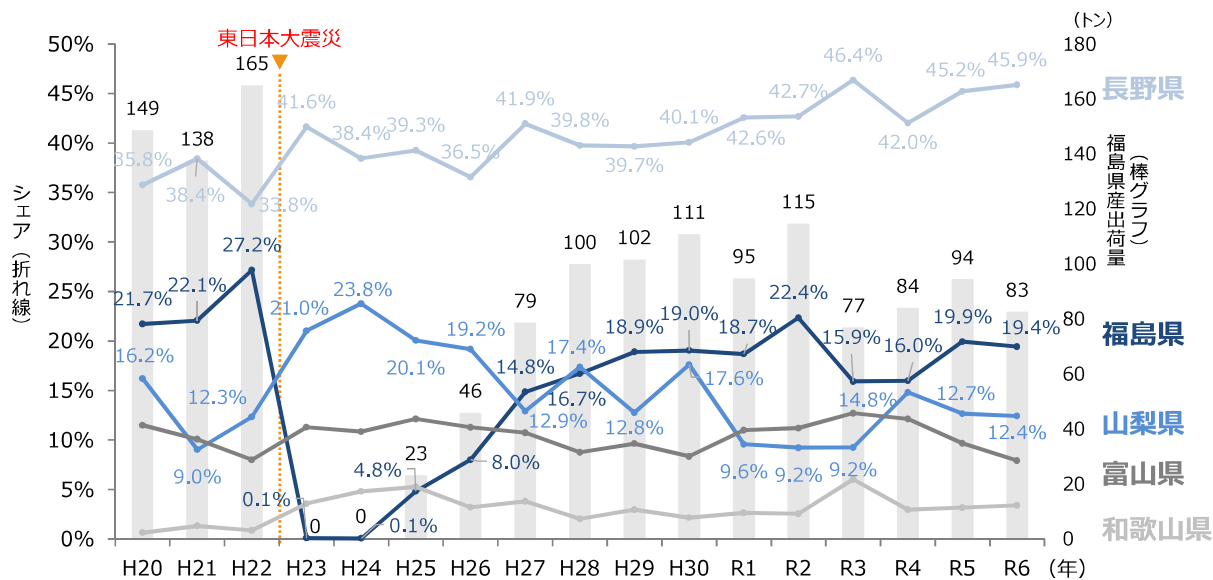
札幌市中央卸売市場		干し柿のデータ												各月で市場シェア1位～3位の順に	
		■ ■ ■ で色付け													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
福島		80%	59%	44%	0%	0%	-	0%	-	0%	0%	10%	30%	37	
新潟		0%	0%	0%	0%	0%	-	0%	-	0%	46%	65%	14%	17	
長野		9%	23%	13%	0%	0%	-	0%	-	0%	0%	0%	16%	12	
山形		0%	0%	0%	0%	0%	-	0%	-	0%	0%	0%	21%	10	
和歌山		6%	7%	17%	0%	0%	-	0%	-	0%	29%	11%	6%	7	
総量		18	10	2	0	0	0	0	0	0	3	14	50		

データ出所：各卸売市場の統計データ ※福島県及び年間取扱量上位県を表示。 ※総量・合計の単位はトン。 310

東京都中央卸売市場における福島県産干し柿のシェアの推移(12月)

東京都中央卸売市場における12月の福島県産干し柿のシェアは、平成23年～平成24年の出荷自粛期間後徐々に回復し、平成27年に山梨県産のシェアを上回り、以降はその状況が継続している。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(12月)

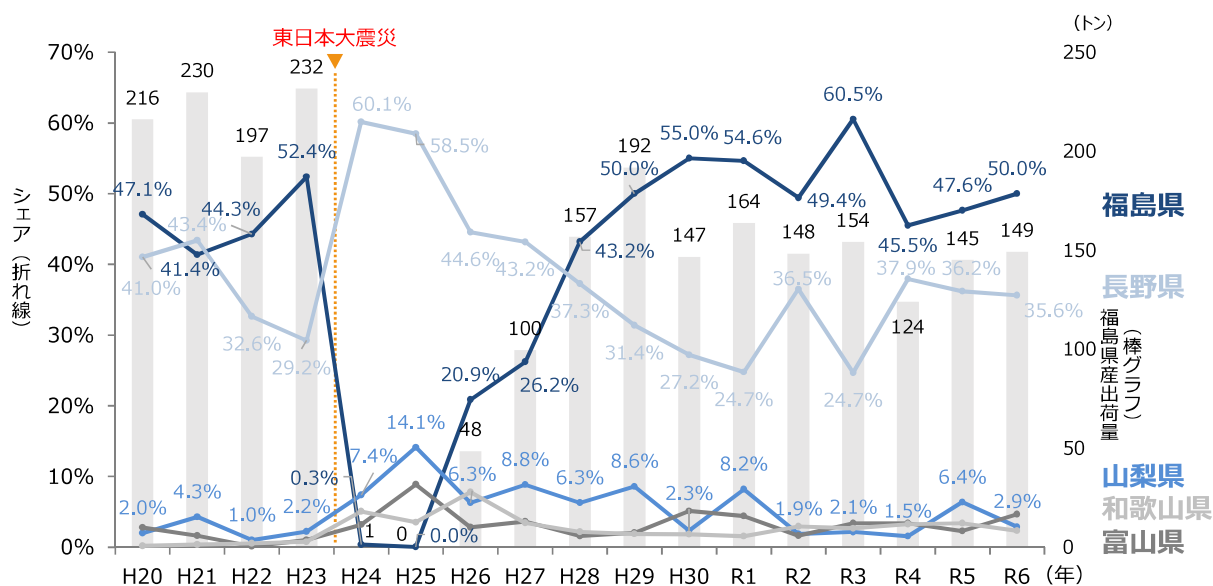


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※「干し柿」のデータ。
※グラフ上の数値は該当月のシェアトップ3の都道府県のみ記載（富山県、和歌山県数値表示なし。）。 311

東京都中央卸売市場における福島県産干し柿のシェアの推移(1月)

東京都中央卸売市場における1月の福島県産干し柿のシェアは、平成24年～平成25年の出荷自粛期間後徐々に回復し、平成26年には山梨県産・和歌山県産・富山県産を、平成28年には長野県産を上回り、以降はシェア1位の状態が継続している。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(1月)

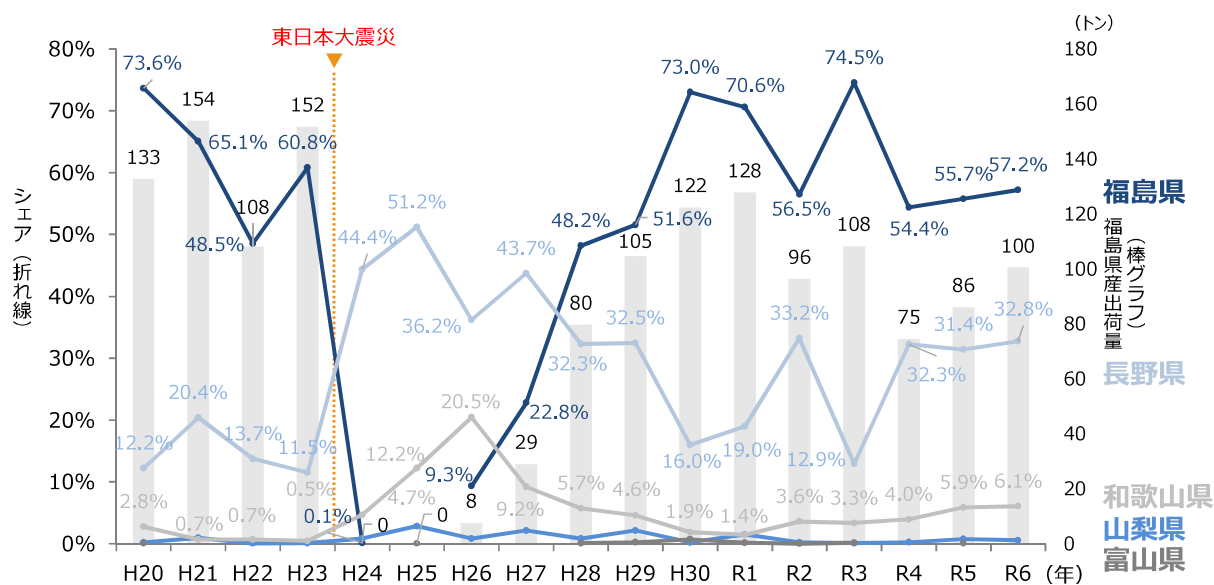


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 ※「干し柿」のデータ。
※グラフ上の数値は該当月のシェアトップ3の都道府県のみ記載（富山県、和歌山県数値表示なし。）。 312

東京都中央卸売市場における福島県産干し柿のシェアの推移(2 月)

東京都中央卸売市場における 2 月の福島県産干し柿のシェアは、平成24年～平成25年の出荷自粛期間後徐々に回復し、平成28年以降は震災前と同様にシェア 1 位となり、平成30年には震災前と同程度の水準まで回復した。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(2 月)

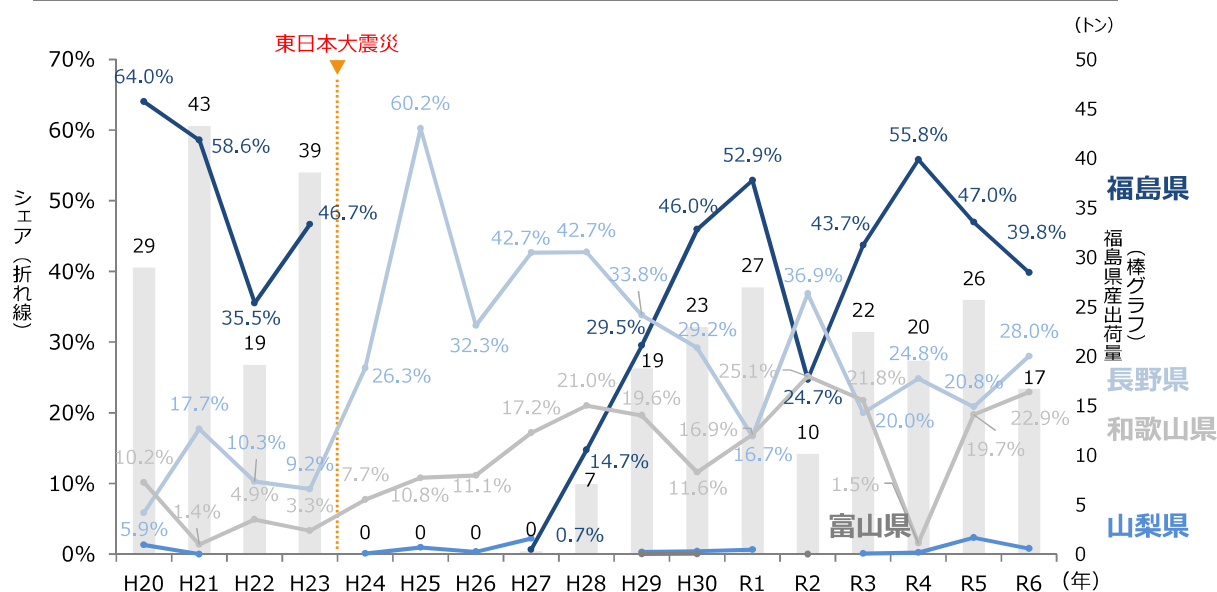


※「干し柿」のデータ。
※グラフ上の数値は該当月のシェアトップ3の都道府県のみ記載（山梨県、富山県数値表示なし。）。
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 313

東京都中央卸売市場における福島県産干し柿のシェアの推移(3 月)

東京都中央卸売市場における 3 月の福島県産干し柿のシェアは、平成24年～平成25年の出荷自粛期間後、平成28年から徐々に回復し、平成29年に和歌山県産、平成30年に長野県産のシェアを上回るようになり、震災前と同様にシェア 1 位となった。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(3 月)

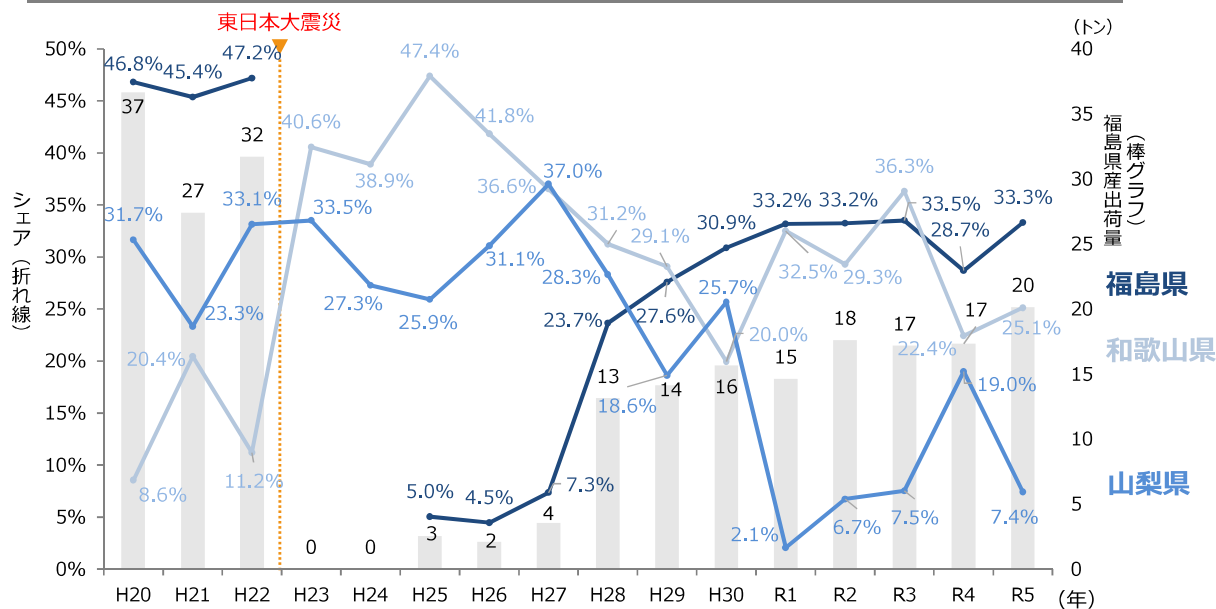


※「干し柿」のデータ。
※グラフ上の数値は該当月のシェアトップ3の都道府県のみ記載（山梨県、富山県数値表示なし。）。
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」 314

大阪市中心卸売市場における福島県産あんぽ柿のシェアの推移(12月)

大阪市中心卸売市場における12月の福島県産あんぽ柿は、震災後和歌山県産・山梨県産にシェアを逆転された。その後、平成30年に再びシェア1位まで上昇したものの、震災前の水準には回復していない。

大阪市中心卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(12月)



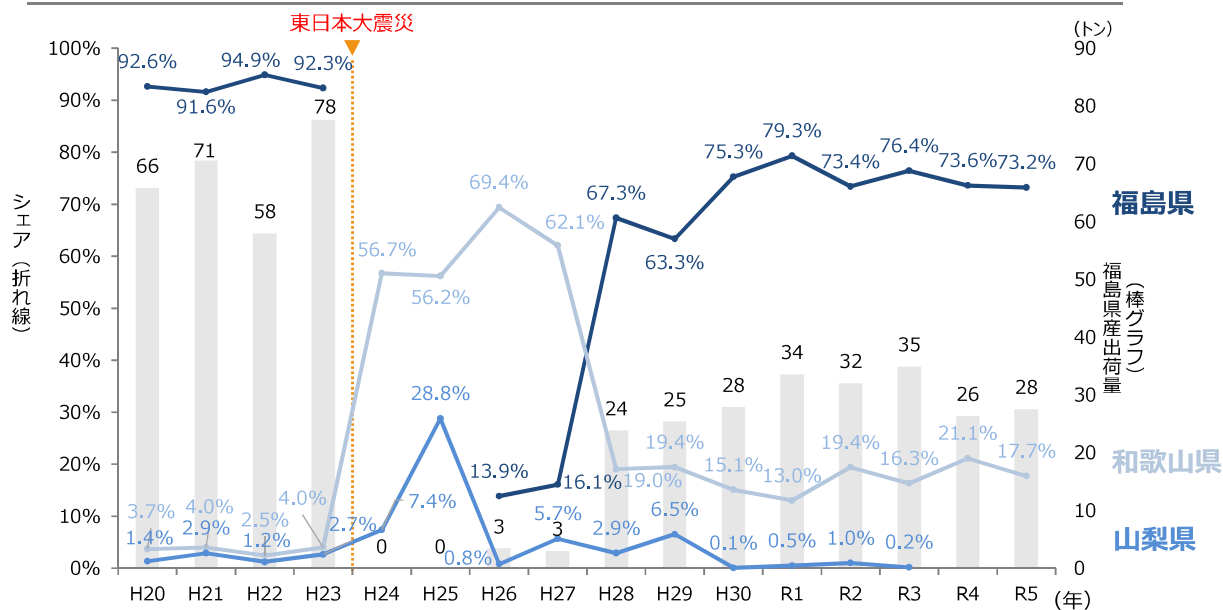
データ出所：大阪市中心卸売市場「市況情報」

315

大阪市中心卸売市場における福島県産あんぽ柿のシェアの推移(1月)

大阪市中心卸売市場における1月の福島県産あんぽ柿は、震災後和歌山県産にシェアを逆転されたが、平成28年にシェアが大きく回復し、以降は再びシェア1位となり、その状態が継続している。

大阪市中心卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(1月)



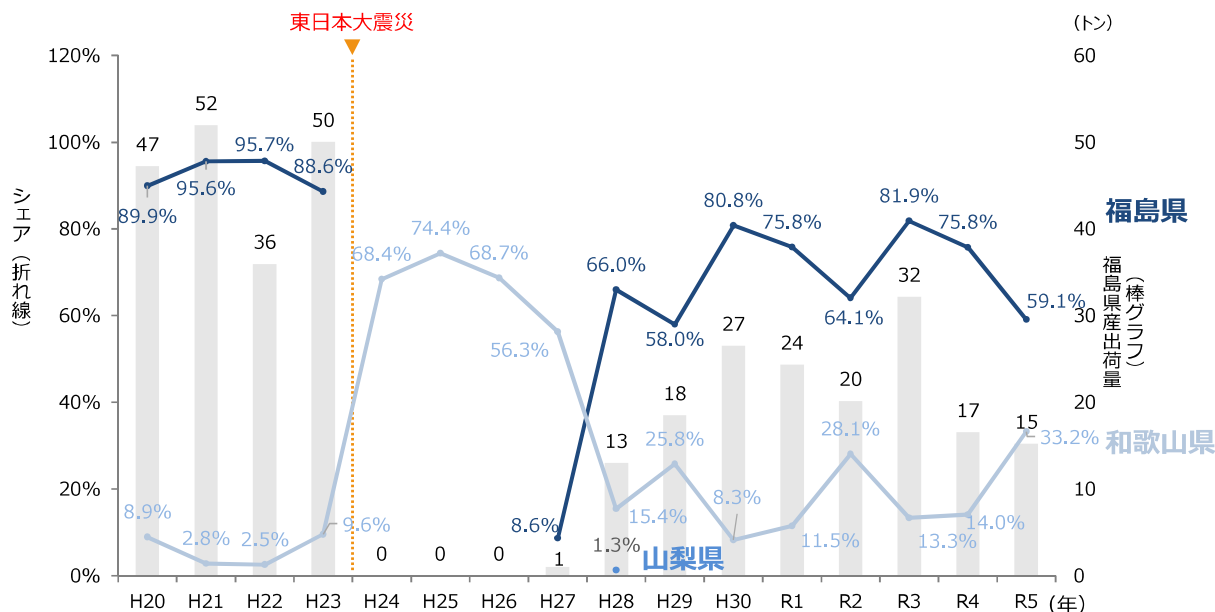
データ出所：大阪市中心卸売市場「市況情報」

316

大阪市中心卸売市場における福島県産あんぽ柿のシェアの推移(2月)

大阪市中心卸売市場における2月の福島県産あんぽ柿は、震災後和歌山県産にシェアを逆転されたが、平成28年にシェアが大きく回復し、以降は再びシェア1位となり、その状態が続いている。

大阪市中心卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(2月)



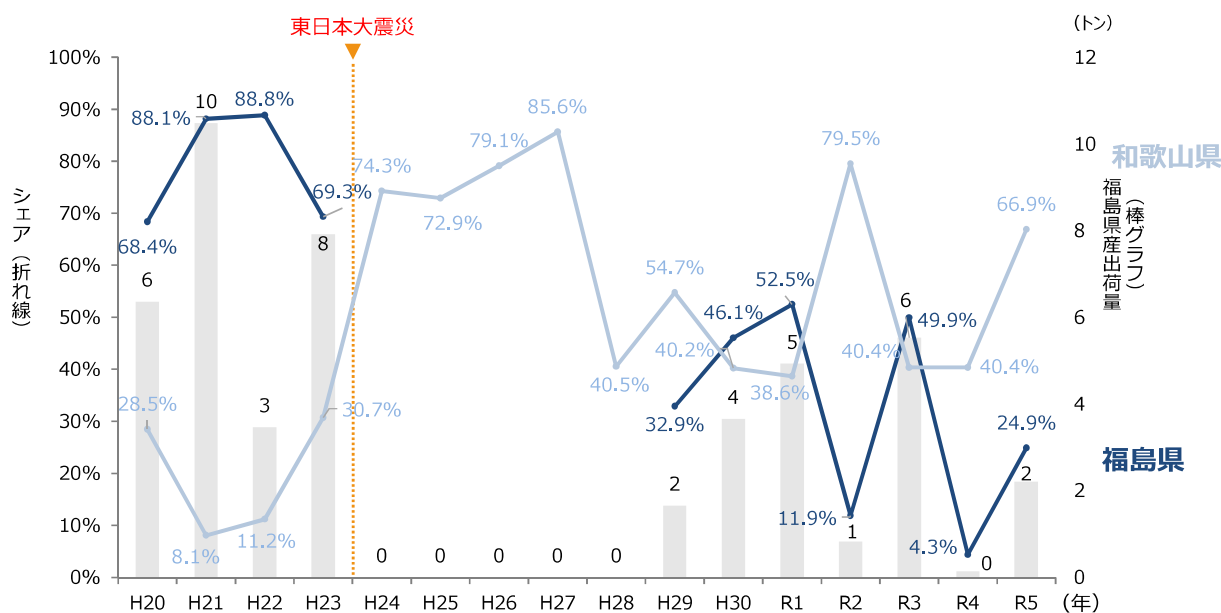
データ出所：大阪市中心卸売市場「市況情報」

317

大阪市中心卸売市場における福島県産あんぽ柿のシェアの推移(3月)

大阪市中心卸売市場における3月の福島県産あんぽ柿は、震災後和歌山県産にシェアを逆転され、その後、和歌山県産のシェアを上回った年はあるが、出荷が非常に少なく和歌山県産を大きく下回る年もある。

大阪市中心卸売市場における福島県産及び競合県産のシェアと福島県産の出荷量(3月)



データ出所：大阪市中心卸売市場「市況情報」

318